

活動のきっかけ

2015年5月、新病院に移転した時点で、既存の災害マニュアルが新しい病院の設備や機能に合っておらず、実際に活用できない、という問題が明らかになった。また、同年に発生した火災と自衛消防訓練で、防災設備や避難方法など、職員の防災に関する知識が乏しいことも分かった。

このままでは、災害に病院として対応できない、災害のマニュアル作成が必要であると考え、

2016年4月より、看護部副看護師長会で取り組みを開始した。



1年目の活動内容（2016年度）

月	副看護師長会活動内容	院内訓練
4月 ～	<p>新病院となり防災マニュアルが現状と合っていないという問題点があった ⇒ 看護部の災害マニュアル作成を目指す 副師長会目標</p> <p>【院内の災害マニュアルをもとに看護部の災害マニュアルを作成し、自衛消防訓練・大規模災害訓練を実施する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛消防(外来・病棟)、大規模災害(津波・地震・トリアージ)の4グループで活動開始 	
6月		大規模災害
～ 2月	<p>現行の防災マニュアルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点の抽出、マニュアル検討 ・ラウンドを行い病院の構造、各設備の把握 ・各設備の使用方法的図式化 ・フロー、アクションカードの作成 	自衛消防訓練
	作成したフロー、アクションカードを使用した防災訓練を繰り返し実施、修正	
3月	マニュアルの完成に向けた活動が必要	トリアージ訓練

地震発生時のフローチャート(外来)							
地震発生時の本部⇒災害対策本部(7階)							
動機	災害発生時の動き						患者の動き
フロー	1階から5階の外来(一般外来、治療室外来)						
連絡/対応	津波警報発令後、4階以上の避難						
経過	フロアリーダー	ユニットリーダー	ユニットリーダー	メンバー看護師	MAグループ	広域スタッフ	患者
地震発生	地震発生 低れが収まるまでの場で待機						
一斉放送	避難の発生に注意すること。その場で待機。避難員の指示に従うよう放送が流れる 7階に避難本部が設置されたこと、被災状況の報告をするよう放送が流れる						
被災状況の確認	安全確保 フロアの被災状況の確認 「ピンポイント」カメラ「軍手着用」	安全確保 フロアの被災状況の確認 「ピンポイント」カメラ「軍手着用」	安全確保 ピンポイントカメラ「軍手着用」 ●アクションカード参照	安全確保 ピンポイントカメラ「軍手着用」 ●アクションカード参照	安全確保 ピンポイントカメラ「軍手着用」 ●アクションカード参照	安全確保 ピンポイントカメラ「軍手着用」 ●アクションカード参照	指示が来ると待機 応急処置が必要場合は 応急処置を行う。
報告	●フロアリーダーからの報告を受け、災害対策本部へ報告	●ユニットリーダーからの報告を受け、ユニットリーダーへ報告	●ユニットリーダーからの報告を受け、ユニットリーダーへ報告	●ユニットリーダーからの報告を受け、ユニットリーダーへ報告	●ユニットリーダーからの報告を受け、ユニットリーダーへ報告	●ユニットリーダーからの報告を受け、ユニットリーダーへ報告	
避難準備	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	●指示に従う ●指示が来ると待機 ●指示が来ると待機	
津波警報発令	対策本部から全館放送「避難の中止」避難準備の開始						
患者誘導・避難	●フロアリーダーへ避難誘導開始指示 ●患者へ報告、広域スタッフ誘導 ●指示が来ると待機	●ユニットリーダーへ避難誘導開始指示 ●広域スタッフへ患者誘導指示	●アクションカードを配布する ●メンバーへ避難誘導開始指示	●避難誘導開始	●避難誘導開始	●避難誘導開始	●指示に従って避難誘導
避難完了	●避難完了の報告を受け、広域スタッフ 避難スタッフの避難指示	●避難完了の報告を受け、広域スタッフ 避難スタッフの避難指示	●患者の避難完了を確認	●患者の避難完了を確認	●患者の避難完了を確認	●患者の避難完了を確認	●指示に従って避難誘導
報告	●本部へ避難完了報告	●ユニットリーダーへ避難完了も報告	●ユニットリーダーへ避難完了も報告	●ユニットリーダーへ避難完了も報告	●ユニットリーダーへ避難完了も報告	●ユニットリーダーへ避難完了も報告	
スタッフ避難	●避難場所へ移動	●避難場所へ移動	●避難場所へ移動	●避難場所へ移動	●避難場所へ移動	●避難場所へ移動	



スタッフ、患者さんを守るために何が必要かを考え、より具体的なマニュアル作成に取り組めた



副看護師長の声

- ・ 構造、セキュリティの把握
- ・ 各設備の使用方法的な図式化
- ・ フロー、アクションカード作成
- ・ 防災訓練を各チーム、各部署で繰り返し実施

災害対策は看護部だけでなく 病院全体の課題



発表会に他職種を招待



マニュアル改訂を試みたが
多くの時間、労力を要する
ことから具体的な行動に
至っていなかった



事務部長、総務企画課職員
など：
「災害対策本部として主体的
に動かなければいけない
と痛感」

2年目の活動内容（2017年度）

月	副看護師長会活動内容	院内訓練
4月	<p>副師長会目標</p> <p>【災害マニュアルを基に、集合教育・災害訓練を実施する】 【他部門と協働しBCPに沿った災害マニュアルを完成する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成を前期、後期で変更し活動 前期：教育、自衛消防(外来・病棟)、大規模災害(外来・病棟)、トリアージ、マニュアル 後期：教育、大規模災害(外来・病棟)、トリアージ、マニュアル ・各グループごとに訓練を実施し、マニュアル、フロー、アクションカードの検証を行いながら修正 ・総務企画課とマニュアル内容の検討を行い、防災委員会への提案 	<p>総務企画課職員をマニュアルチームの一員に迎え活動を開始！！</p>
7月	自衛消防研修： 7月6,12日	自衛消防訓練
10月	トリアージ研修：10月17,24日	
12月		トリアージ訓練
1月	大規模災害研修：1月11,15日	
2月	BCPに沿った災害マニュアル完成	大規模災害訓練

多職種と協働



リアリティを出すために血のりの衣装準備しよ。



副看護師長の頑張り見てたら、俺らも頑張らなあかな！

負けてられへん！

1年間 総務企画課職員と訓練、
研修会の話し合いを重ね取り組んだ

研修会・防災訓練



リアリティを追求した
訓練



血のり付き
衣装

研修名	目的	目標	方法	講師	対象者	参加人数
自衛消防	火災発生時の避難対応が理解でき、患者・職員の安全を守るための行動を導くことができる。	①火災発生時の基本対応、避難経路が理解できる。 ②消防設備の使用方法が理解できる。 ③火災発生時のフローチャートが理解できる。	講義	副看護師長 事務	全職員	322名(医師1名 看護師235名 他部門87名)
トリアージ	トリアージが理解でき、限られたスタッフ・医療資源を最大限に活用し、負傷者の治療を行うことができる。	①負傷者の傷病の緊急度や重症度に応じた治療搬送の優先順位を決定するトリアージ方法と手順が理解できる。 ②各エリア別の看護師の役割が理解できる。	講義	副看護師長	外来看護師	
トリアージ	トリアージが理解でき、限られたスタッフ・医療資源を最大限に活用し、負傷者の治療を行うことができる。	負傷者の傷病の緊急度や重症度に応じた治療搬送の優先順位を決定するトリアージ方法と手順、役割が理解できる。	講義	副看護師長 事務	全職員	250名(医師28名 看護師172名 他部門50名)
大規模災害	災害発生時の対応が理解でき、患者・職員の安全を守るための行動を導くことができる。	①災害発生時の基本対応、避難経路が理解できる。 ②災害発生時のフローチャートが理解できる。	講義	副看護師長 事務	全職員	265名(医師2名 看護師175名 他部門88名)

協働した結果



- ★副師長会の活動から始まり、多職種と協働して院内の災害マニュアルを作成することができた
- ★全職種対象の防災教育を行うことで、防災意識と対応能力の向上につなげることができた



何が起こっても守るぞ！
どんとこい！！